

JACO NEWS

株式会社 日本環境認証機構

[JACO]

Japan Audit and Certification Organization
for Environment and Quality

2009 October

No.17

Close-up
NEWS&REPORT

ISO 14005準拠 JACOスキームについて

NEWS
&
REPORT

- 1—プロセスアプローチでパフォーマンスを改善
- 2—国内排出権取引制度について
- 3—「お客様に対するお役立ち営業」を実践する西日本営業部



JACO NEWSはお客様のご連絡窓口または既発行号の当欄でご登録いただいた送付先にお届けしておりますが、次号以降(年2回発行)について送付先の変更をご希望の方は、下記の依頼書に必要事項をご記入のうえ、FAXにて事務局までお申し込みくださいますようお願いいたします。

株式会社 日本環境認証機構
JACO NEWS事務局 行き
FAX 03-5572-1756

JACO NEWS送付先変更依頼書

| 現在の送付先 | |
|--------|--|
| 郵便番号 | |
| 住所 | |
| 会社名 | |
| ご担当部署名 | |
| 備考 | |

※変更項目のみご記入ください

| 変更を希望する送付先 | |
|------------|--|
| 郵便番号 | |
| 住所 | |
| 会社名 | |
| ご担当部署名 | |
| 備考 | |

▶送付先変更のお申し込みはメールでも受け付けています。
E-mail: cs-center@jaco.co.jp

通知いたしております読者の個人情報、本誌の送付のために使用する目的で収集するものであり、第三者へ提供・開示することは一切ありません。
なお、当社は「個人情報の取扱い」について細心の注意と最大限の努力をもって保護・管理を行います。詳細は当社のホームページをご覧ください。

INDEX

▶ご挨拶

日本マネジメントシステム認証機関
協議会(JACB)代表幹事に就任して 3
株式会社 日本環境認証機構 代表取締役社長 下井 泰典

▶Close-up NEWS & REPORT

ISO 14005準拠 JACOスキームについて 4
審査部 次長 永田 宗一

▶NEWS & REPORT

- ① プロセスアプローチでパフォーマンス改善 6
システム認証部 岩波 好夫
- ② 国内排出権取引制度について 8
CDM事業推進部長 田中 辰雄
- ③ 「お客様に対するお役立ち営業」を
実践する西日本営業部 10
取締役関西支社長 兼 西日本営業部長 川手 公明

▶CUSTOMER VOICE

- ① 事業活動へのEMSの最適化を目指す 11
JOHNAN株式会社
EQI推進室 室長(総括環境管理責任者) 澤田 俊哉 様
- ② ISO取得4年目、新たな取組み 12
手島精管株式会社
代表取締役社長 手島 二三男 様
- ③ ISMSが与えてくれた「見える化」の力 13
静岡大学 情報基盤センター
副センター長 博士(情報工) 准教授 長谷川 孝博 様

▶JACO SEMINAR

ホットなJACOセミナーをご活用ください 14

表紙

奥穂高岳から見たジャンダルム
(株)日本情報セキュリティ認証機構 山口 元之

今年8月に、北アルプスの西穂高岳からジャンダルムを経て奥穂高岳まで縦走しました。奥穂高岳から見たジャンダルムです。ジャンダルムとはフランス語で憲兵、転じて前衛峰の意味、奥穂高岳を守る前衛峰として登山家の憧れの山になっています。切り立った岩峰の頂上には登頂した人達が立ち、遠く雲が湧き、大自然の大きさを感しながらシャッターを切りました。

■表紙の写真は、(株)日本環境認証機構グループ各社社員の写真愛好家による投稿写真から作品を選んで掲載いたしました。

JACO NEWS No.17

2009年10月発行 編集・発行/株式会社日本環境認証機構
〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル
TEL 03-5572-1741 FAX 03-5572-1756



日本マネジメントシステム認証機関
協議会(JACB)代表幹事に就任して

ISOの良さをお客様や一般の方々にも伝えます

株式会社日本環境認証機構
代表取締役社長

下井 泰典

本年7月下旬に開催されました日本マネジメントシステム認証機関協議会の臨時総会において第9代目の代表幹事に就任いたしました。

日本マネジメントシステム認証機関協議会[英文化称: Japan Association of Management System Certification Bodies(略称: JACB)]は、日本国内で事業活動を行い、財団法人日本適合性認定協会[略称: JAB]、財団法人日本情報処理開発協会[略称: JIPDEC]等のIAF(認定機関フォーラム)加盟の認定機関により認定されたマネジメントシステム認証機関による協議会であり、2000年4月に設立されました。

国内での認証サービス業としての主要な業界団体であると同時に、IAF準会員として国際的なコアメンバーの1つとなっています。

今年度の始め2009年4月21日付にて、同じ目的で活動しているもう1つの協議会の情報マネジメントシステム認証機関協議会(JISR)と組織統合し、協議会名称も変更し、協議会規約も全面的に改定いたしました。

種々の新しいマネジメントシステム規格が出現してくる状況に機動的、総合的に対応し、認定機関や市場全般に認証機関として統一的な対応を図り、日本のマネジメントシステムの第三者認証制度の健全な発展と信頼性の維持・向上を、より効率的かつ強力に進めていくことを狙いとしています。現在の会員は49機関が加入しています。

JACBでは、「マネジメントシステム第三者認証制度の健全な普及・発展」、「認証活動の質の向上」と「機関の地位向上」を目的として、次のようなさまざまな活動を行っています。

- ① マネジメント認証の規格に関する知識、情報の交流
- ② 認証制度に関する調査・研究及び国内外への提案・協力

③ 協議会としてのガイドライン、指針等の検討及び整備

④ 国内外の関連機関・団体への加盟や代表委員の派遣を含む交流の推進

⑤ ウェブサイトの運営による広報

代表幹事の任期は原則1年単位ですが、今年度は変則の来年3月までの8ヶ月間となっており、次の2つの柱で活動してまいります。

1つは、協議会の所期の目標達成のために全力を挙げるとのことと、もう1つはJACB結成10年目を迎え、私どものお客様である登録組織や一般者へのサービス・情報提供活動を柱に据えました。

1つ目の所期の目標については前述の通りであります。今年度は特に昨年7月に経済産業省から出されました「マネジメントシステム規格認証制度の信頼性確保のためのガイドライン」を受け、これに向けたアクションプランの実行が挙げられます。

また、2つ目のサービス・情報提供につきましては、可能な限りJACBのメンバーは結束し、共同歩調をとりながら活動することにより各機関別の情報発信からJACBの共有財産として情報提供を推進し、ISOに対する理解を高める活動を展開したいと考えています。この第1弾として、当ウェブサイトのリニューアルを行い、登録組織の方々や一般者の皆様のためにより役立つ情報を掲載してきました。ぜひ、私どもJACBのホームページ(<http://www.jacb.jp/>)をご訪問いただき、皆様方からのご意見・ご要望をお待ちいたします。

今年度の私の活動モットーとして、「競争から協創へ」を掲げました。意図するところは、協力しながらこのISO市場を守り、作り上げることを願ったものです。JACO単独としてお答えすべきものもありますが、可能な限りJACBとして回答してまいります。



ISO 14005準拠 JACOスキームについて お客様の取引先にご推奨願います

審査部 次長
永田 宗一

はじめまして、今年6月審査部次長に就任いたしました永田です。

現在、『ISO 14005に準拠したJACOスキーム』推進のプロジェクトリーダーを務めています。昨年から規格動向を調査・把握しながら、今年度中に検査を開始できるように全社をあげて取り組んでいます。今回、JACOスキームが完成に近づいてきましたので、ご紹介いたします。

ISO 14001/14005動向と市場状況

環境負荷低減は、99%を占める中小企業にも重要課題であり、ISO 14001開発当初から中小企業向け環境マネジメントシステムの必要性が検討されてきました。

2005年にCEN(欧州標準化委員会)が環境マネジメントシステムの段階的適用指針の規格化を提案。2006年にISO 14005策定作業の準備を開始。6回のWG(Working Group)開催を得て、2010年3月末にFDIS(Final Draft International Standards:最終国際規格案)の発行が予定されています。

ISO 14001は、大企業を中心に広まってきましたが、部品メーカーなどの中小企業については、システム構築の難易度が高く、認証は重荷になっています。さらに、リーマンブラザーズショックに端を発した世界同時不況の影響もあり、なかなかISO 14001認証が進まないのが現状です。一方、ISO 14001以外にも、欧州では英国規格BS8555(2003年発行)に代表される段階型EMSがACORNというスキームの下で検査・運用されています。BS8555は6段階目(5段階までで合計30Step)でISO 14001到達を目指すもので、日本での普及はなかなか困難かと思えます。また、我が国でもISOとは似て非なる各種の簡易版EMSや段階型EMSの認証組織が乱立していますが、いずれも最終的にISO 14001到達を目指してはいるものの実態は難しいよう

です。ISO 14005は、中小企業にEMSを普及し、段階的に14001に到達するための国際規格であり、審査機関として率先し、環境負荷の低減活動に貢献するとともに、環境マネジメントシステム拡大の新機軸としていきます。

ISO 14005準拠JACO段階型 マネジメントシステム(JACOスキーム)

①JACOスキームの特徴

JACOスキームはISO 14001に到達するための段階的スキームであり、簡易版ではありません。PDCAサイクルを廻しながら、Hop・Step・Jump(=ISO 14001)の3段階目で無理なくISO 14001の認証に到達できるスキームです。Hop・Stepは「審査」ではなく「検査」とし、合格基準は後段③で説明します。

②段階型(Hop・Step・Jump)

(要求事項とPDCAサイクル(表1))

3段階を設定するにあたり、以下を考慮し決定しました。

- 61個の「shall」で記述されるISO 14001の要求事項を、書き換えることなく108個の要求事項に分割し、3段階に配分。
- 初心者にとって難易度が高い事項(例えば内部監査など)はJumpに設定。
- Hop・Step・Jumpの各段階で、それぞれPDCAサイクルが廻るように配慮。
- 最低限必要な事項や、企業存続に必要なコンプライアンスに関連する事項は、優先的にHopに設定するとともに、一部に可否判断上の必須達成事項を設定。
- Hop・Step・Jumpで偏りが出ないようにバランスを考慮。

③合格基準(各段階での要求事項・達成基準・判断基準(表2))

ISO 14001の要求事項を分解し、それぞれに達成基準・判断基準を設定し、Hop・Stepの各段階での要求事項について、適合か不適合かで評価します。

Hopの段階では、Hopで要求する46事項について検査しますが、その合格基準は厳密な要求事項であるISO 14001とは異なり、全事項達成しなくても80%以上の達成で合格とします。(具体的には24個の必須事項と、残り22個のうち13事項の達成で合格。Stepも同様の仕組み。ただし一部設定した必須事項は達成が必要です)

Hop・Step段階検査合格組織には『JACO合格証』を発行します。

④システム構築教育

システム構築教育として、以下の資料とセミナーがありますので、よろしくお願いたします。(セミナーについては、14ページをご参照ください)

- ISO 14005準拠 JACO段階型環境マネジメントシステム
要求事項・達成基準・判断基準の提供
- システム構築セミナー

最後に

ISOマネジメントシステムの認証は、信頼度が高い第三者評価制度に認められた全世界に提供する『証』であり、生活や地球環境などについて、お客様の満足が得られることを目指しています。ぜひ、皆様方の取引先の方々にJACOスキームの活用をご推奨お願いたします。

表1 要求事項とPDCAサイクル

| ISO 14001 目次 | Hop | Step | ISO 14001 |
|------------------------|-----|------|-----------|
| 4.1 一般要求事項 | ● | | |
| 4.2 環境方針 | ● | ● | |
| 4.3.1 環境側面 | ● | | ● |
| 4.3.2 法的及びその他の要求事項 | ● | | ● |
| 4.3.3 目的、目標及び実施計画 | ● | ● | |
| 4.4.1 資源、役割、責任及び権限 | ● | ● | |
| 4.4.2 力量、教育訓練及び自覚 | ● | ● | |
| 4.4.3 コミュニケーション | | ● | ● |
| 4.4.4 文書類 | ● | ● | ● |
| 4.4.5 文書管理 | ● | ● | ● |
| 4.4.6 運用管理 | ● | ● | ● |
| 4.4.7 緊急事態への準備及び対応 | ● | ● | |
| 4.5.1 監視及び測定 | ● | | ● |
| 4.5.2 順守評価 | ● | ● | |
| 4.5.3 不適合並びに是正処置及び予防処置 | ● | ● | ● |
| 4.5.4 記録の管理 | ● | ● | ● |
| 4.5.5 内部監査 | ● | | ● |
| 4.6 マネジメントレビュー | ● | ● | ● |

表2 各段階での要求事項・達成基準・判断基準

| ISO 14001 目次 | No. | | ISO 14001 要求事項 | 段 階 | | | Hop達成基準 | Hop判断基準 | | | |
|--------------|-------|-----|---|-----|------|------|---|--------------|---|---|------------|
| | shall | sub | | Hop | Step | Jump | | 適合(改善の余地を含む) | 不適合 | | |
| 4.1 一般要求事項 | 1 | 1 | 組織は、この規格の要求事項に従って、環境マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、継続的に改善し、どのようにしてこれらの要求事項を満たすかを決定すること。 | ○ | | | Hop項目のEMSの仕組みが構築され(文書化されていなくとも可)、どこまでどの程度に実施、維持するかが決定している。 | ○ | 要求事項通り、EMSを確立し、実施し、どのようにEMSを満たすかを決定している。文書化されないまでも、インタビューにて同様なことが確認できる。 | × | 左記が確認できない。 |
| | | 2 | 組織は、この規格の要求事項に従って、環境マネジメントシステムを文書化すること。 | | ○ | | | | | | |
| | 2 | 3 | 組織は、その環境マネジメントシステムの適用範囲を定め、文書化すること。 | ○ | | | 前項の文書に、組織名称、所在地、業務、要員(派遣、パートを含むか否か)など。なお、EMS適用範囲を限定する場合はその記述が記載されていること。 | ○ | 適用範囲について左記が文書化されている。(チェリーピッキングはNG) | × | 左記が確認できない。 |



プロセスアプローチでパフォーマンス改善

システム認証部
岩波 好夫

ISO 9001認証の現状

ISO 9001 認証を取得する組織の業種が拡大しています。その一方で、“ISO 9001 認証を取得したが、パフォーマンスが改善しない。経営に役立っていない”という問題をかかえている組織も増えています。

ISO 9001 規格は、2000年版の改訂において、従来の“手順書にもとづいた管理の規格”から、プロセスアプローチによる“品質マネジメントシステムの有効性を改善する規格”に変わりました。すなわち、以前はルールどおりに仕事をすればよかったです。プロセスアプローチの採用により、成果を出すこと、そしてその結果として経営パフォーマンスを改善することが求められています。このことは、ISO 9001 規格2008年追補改正版では“成果を含むプロセスの運用”という表現に変わり、一層明確になりました。

しかし、残念ながらISO 9001 認証を取得している組織で品質マネジメントシステムの運用・管理をプロセスアプローチで行っているところは多くありません。

ISO 9001の目的はシステムの有効性の改善

ISO 9001 規格では、その基本的な要求事項として、つぎのように品質マネジメントシステムを確立して運用することを求めています。

- ① ISO 9001 規格の要求事項に従って品質マネジメントシステムを確立し、運用する。
 - ② 品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善する。
- すなわち、ISO 9001の目的は品質マネジメントシステムの“有効性の継続的改善”にあるのです。ここで有効性とは、目標や計画を達成した程度を表します。

$$\text{有効性} = \frac{\text{実績} \cdot \text{成果}}{\text{計画} \cdot \text{目標}}$$

プロセスアプローチ

ISO 9001 規格ではまた、つぎのようにプロセスアプローチによって品質マネジメントシステムを運用し、その有効性を継続的に改善することを求めています。

- a) 品質マネジメントシステムに必要な組織のプロセス（業務）を明確にする。
- b) 各プロセスの順序と相互関係を明確にする。
- c) 各プロセスの運用・管理のための方法と判断基準を明確にする。
- d) 各プロセスの運用と監視のための資源と情報を準備する。
- e) 各プロセスの監視・測定及び分析を実施する。
- f) 各プロセスの計画どおりの結果を得るため、及び継続的改善を達成するための処置をとる。

これを図示すると、図1のプロセス分析図（タートル図と呼ばれる）のようになります。この図で最も重要な要素は、右下欄の評価指標（プロセス・パフォーマンスの監視・測定項目と目標値）、すなわち品質マネジメントシステムのプロセス（組織の各業務）のパフォーマンスを監視して改善することです。

プロセス監査とプロセスアプローチ監査の違い

一般的に、“ISOは決められたことを確実にするための仕組みである”と考えられているようです。ISO 9001 認証組織の内部監査結果の報告書を見ると、“ISO 9001の要求事項を満たしていない。決められた手順どおりに仕事を行っていない”という内容の指摘が多いようです。しかし、これだけではパフォーマンスの改善につながる内部監査、すなわち役に立つ内部監査とはいえません。

いわゆるプロセス監査（業務別監査）と、プロセスアプローチ監査の違いを図2に示します。いずれも“プロセスごとに行われる監査”という点では同じですが、プロセ

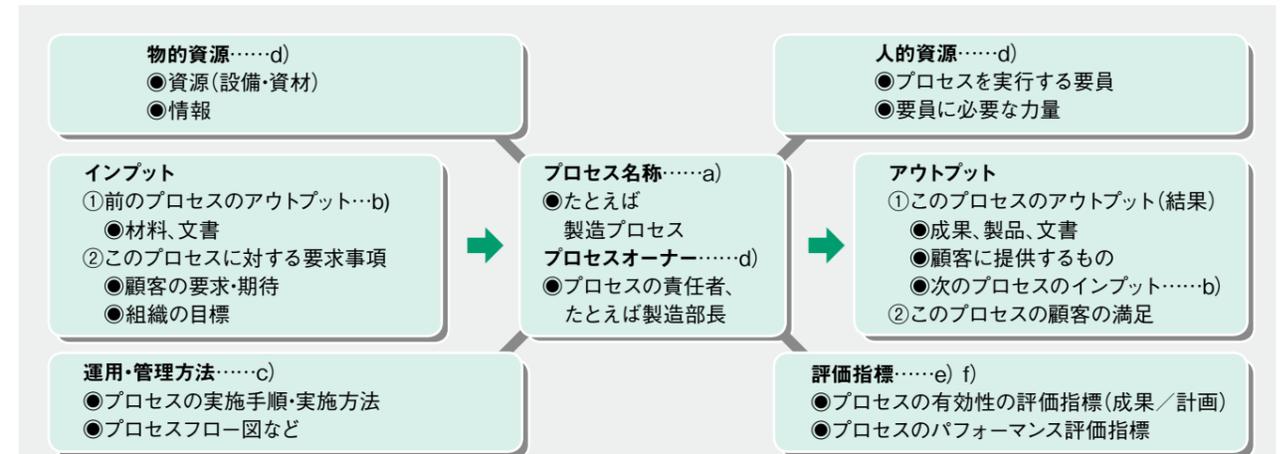
ス監査は業務手順どおりに仕事が行われているかどうかを確認するのに対して（すなわち適合性の監査）、プロセスアプローチ監査ではプロセス（業務）の目標と計画が達成されているかどうか、すなわちプロセスの成果を確認してパフォーマンスの改善につなげます（すなわち有効性の監査）。

（図1及び図2は、『図解ISO 9000よくわかるプロセスアプローチ』（岩波好夫著、日科技連出版社発行）から引用）

プロセスアプローチでパフォーマンスの改善を

このように、プロセスアプローチをうまく使いこなすことによって、組織の経営指標を含むパフォーマンスの改善を達成することが可能になります。

ISO 9001 認証組織の品質マネジメントシステムの運用状況の再確認と、プロセスアプローチの積極的な採用が望まれます。



【備考】 a)～f)は、ISO 9001 規格箇条4.1の a)～f)を示す。

図1 プロセス分析図(タートル図)

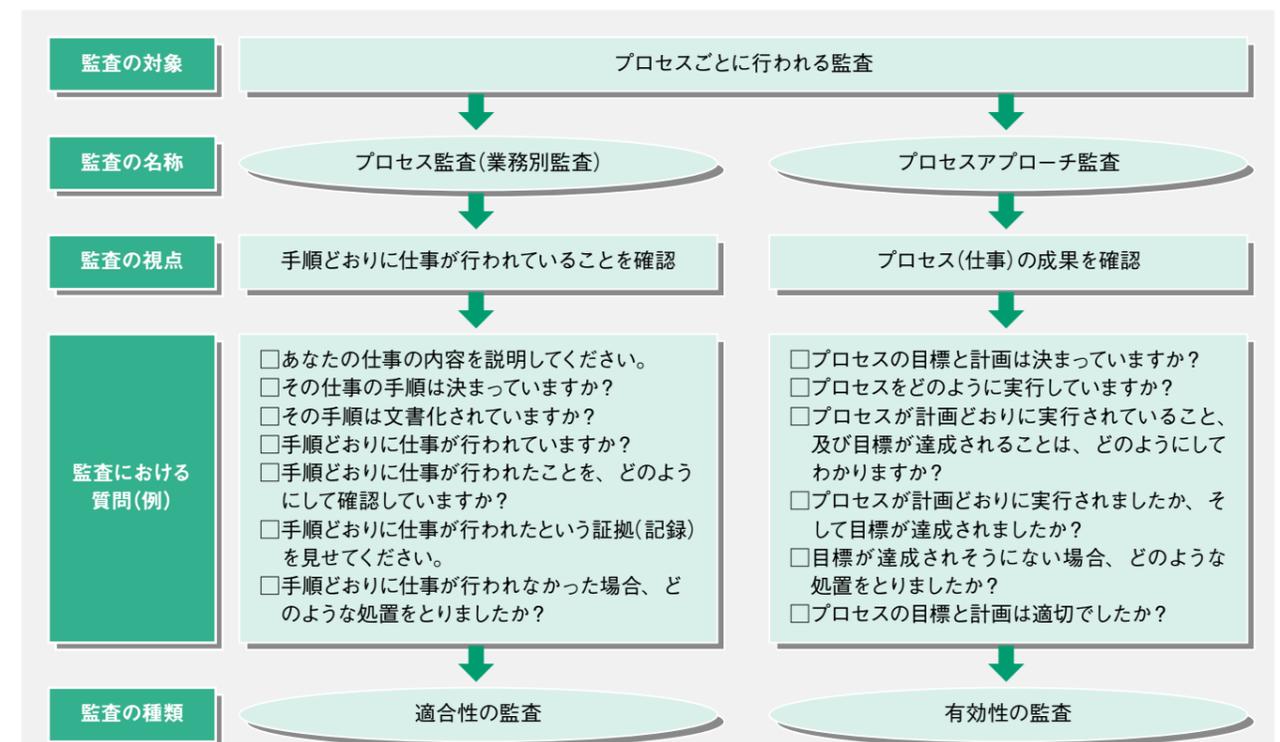


図2 プロセス監査とプロセスアプローチ監査の違い



国内排出権取引制度について

株式会社JACO CDM 事業推進部長
田中 辰雄

はじめに

2009年7月に開催された主要国首脳会議（ラクイラ・サミット）において、主要8カ国（G8）は温暖化ガスの削減に関して2050年までに先進国が80%以上削減するとの長期目標で合意した。今後、2013年からの京都議定書の第2約束期間以降の枠組みを決定するために、今年12月にコペンハーゲンにおいて開催される第15回国連気候変動枠組み条約締結国会議（COP15）に向けて、さらに議論が重ねられていくことになる。

9月16日に樹立された民主党政権は、2020年の温暖化ガス削減目標を1990年との比較で25%削減することを決定し、鳩山首相が国連気候変動サミットにおいて途上国支援の取組みとしての鳩山イニシアチブを提案するとともに、削減目標を国際的に公約した。この削減目標は、京都メカニズムの活用、森林吸収源対策が含まれている。また、大幅な削減目標を実現するために、①排出量取引制度の2011年度の導入、及び②温暖化対策税（環境税）の検討が開始されている。

京都メカニズムについて

京都メカニズムは、1997年12月に京都で開催された第3回国連気候変動枠組み条約締結国会議（COP3）において採択され、2005年2月に発効したものであり、主要先進国及びロシア、東欧など市場経済移行国は「基準年排出量」×「排出削減数値目標」×5年で計算される初期割当量が温暖化ガスの排出量の上限と定められた。

この排出量削減目標を達成するための補足的な仕組みとして市場原理を活用すべく導入されたメカニズムである。京都メカニズムは次の3つの制度からなる。

- (1) 共同実施（JI：Joint Implementation）
- (2) クリーン開発メカニズム
（CDM：Clean Development Mechanism）
- (3) 国際排出量取引

（IET；International Emission Trading）

当社は(1)及び(2)のメカニズムにおいてこの有効化審査及び検証審査を国連気候変動枠組み条約において定められた第三者認定機関として遂行し、多くのプロジェクトを手がけ、国際貢献を果たしてきている。

国内統合市場について

わが国における温暖化ガスの2007年度の確定値（13億7400万トン-CO₂）は、京都議定書削減約束に対してその9.6%を削減する必要がある。この必要量を実現することを目的として各種排出量取引制度が創設され、次に示す国内統合市場の形成が最終的な目標とされている。本制度の概要は図1及び以下に示す通りである。図1の制度のポイントに示されているように、大企業、中小企業を問わず、あらゆる業種の企業などさまざまな主体が実効性のある排出削減を行うためのさまざまなメニューを用意されている。次に制度毎にその概要を示す。なお、制度の詳細についてはそのHPを参照されたい。また、上述したように、今後、制度の内容は統合化に向けてさらに改良されていくものと考えられる。

(1) 試行排出量取引スキーム

基本はキャップアンドトレード方式であるが、本制度の参加類型の一つとされる自主参加型国内排出量取引制度（JVETS）とともに、排出削減目標は自主行動計画参加企業及び自主行動非参加企業からなる目標設定参加者が自主的に決定する制度となっている。

(2) 自主参加型国内排出量取引制度（JVETS）

環境省により、2005年から①CO₂排出削減設備に対する設備補助、②一定量の排出削減の約束、③排出枠の取引により、積極的にCO₂排出削減に取り組もうとする事業者を支援し、確実かつ費用対効果に優れた形で削減を実現することを目的として開始されたものである。キャップアンドトレード方式であるが、目標設定は自主的である。

排出量取引の国内統合市場の試行的実施の概要

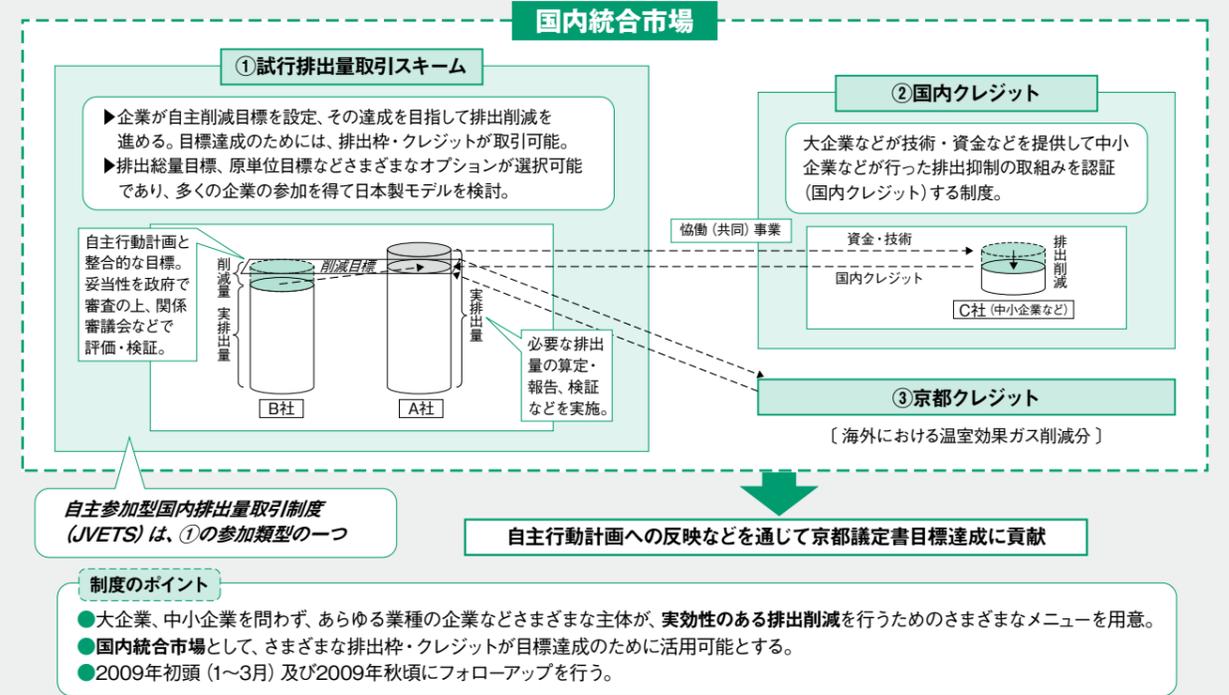


図1 国内統合市場の試行的実施の概要（出展 内閣府・環境省・経済産業省）

(3) 国内クレジット制度

大企業などの技術・資金などを提供して中小企業など（自主行動計画にも参加していない企業として、中堅企業・大企業も含む）が行った温室効果ガス排出抑制のための取組み（事業）による排出削減量を認証し、自主行動計画などの目標達成のために活用する仕組みである。上述の2つの制度とは異なり、ベースラインクレジット方式である。なお、本制度には、中小企業などを対象とした排出設備導入支援（ハード支援）及び排出削減計画の審査費用の一部の支援など（ソフト支援）の制度が導入されている。

次に統合市場とは別のカーボン・オフセットに関連したオフセット・クレジット（J-VER）制度と東京都によるキャップアンドトレード方式を導入した削減義務制度について述べる。

(4) オフセット・クレジット（J-VER）制度

本制度は、温室効果ガス排出削減・吸収に係る自主的な取組みを通じて一定の品質が確保され、市場を流通するオフセット・クレジット（J-VER）を発行することを目的としている。また、個人、企業、自治体などによる主体的なカーボン・オフセットの取組みを促進するとともに、国内の企業や自治体などにおける自主的な削減・吸収に係る努力が促進されることが期待されている。特に、森林に関連したプロジェクトを対象としていることが他の制度とは異なる特徴である。森

林整備事業について、市場メカニズムを利用して新しい資金が山村に流れるという仕組みにより、その事業がさらに活性化されることが期待される。

(5) 東京都環境確保条例の改正（「地球温暖化対策計画書制度」の改正）

東京都では、2000年に公布された「東京都環境確保条例」と2002年より開始された「地球温暖化対策計画書制度」に基づき温暖化対策を推進してきている。しかしながら、世界的な動向及びそれに伴う我国の方針を踏まえて当該制度の強化が必要との観点から、2008年の条例改正により、温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度を導入したものである。本制度は京都議定書と同様なキャップアンドトレード方式である。なお、条例及び同施行規則の施行は2009年4月、総量削減義務は2010年4月からの開始となる。制度の詳細については現在整備が進められており、東京都のHPを逐次参照されたい。

当社の取組み

当社は、京都メカニズムにおける第三者検証機関としての経験を生かし、各種の国内排出量取引制度に関して、登録第三者検証機関としての業務をすでに推進もしくは推進予定であり、今後、さらに拡大が予想される検証業務に対しても貢献していきたい。



「お客様に対するお役立ち営業」を 実践する西日本営業部

取締役関西支社長 兼 西日本営業部長
川手 公明

昨年の金融不安をきっかけとした市場環境は依然厳しい状況が続くなか、「認証を通じてお客様の経営課題解決のお手伝いをする」というJACO本来の業を果たし、より地域に密着した営業活動を展開するため、西日本営業部として本年6月に発足いたしました。

西日本営業部では「お客様に対するお役立ち」を合言葉に3つの行動方針のもと、お客様との課題を共有化させていただき、身近なJACOとなるべく活動を展開してまいります。

- ①お客様の声に耳を傾け「Face to Face」活動を積極的に展開します。
- ②お客様への情報提供など支援策の一層の強化に努めます。
- ③業務効率向上によるスピードUPと、きめ細やかな対応に努めます。

当部の担当エリア（近畿・中国・四国・九州）においては、現在1500以上の組織にISO認証登録をいただいております。

私たちは、「お礼とお願い」また日頃ご無沙汰しておりますこと「お詫び」を常に念頭に置き、気持ちも新たにお

■西日本営業部担当エリア



客様のお役に立つ営業活動を行なってまいります。
今後とも引き続きお引き立てを賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。

ISO運用につきまして課題、疑問などがございましたら
遠慮なく弊部までご一報くださいますようお願い申し上げます。
西日本営業部 TEL 06-6345-1731 FAX 06-6345-1730



■西日本営業部のメンバー

後列左から室家、内藤、高橋（副部長）、中山、浅野、西村
前列左から小川、渡邊、川手（取締役関西支社長 兼 西日本営業部長）、岡崎、中西



高山



三浦

JOHNAN株式会社



事業活動へのEMSの最適化を目指す

EQI推進室 室長（総括環境管理責任者）
澤田 俊哉 様

グループとしての 環境管理活動の推進

JOHNANグループは、京都府宇治市に位置するJOHNAN株式会社を核に、電子部品の製造、製造設備の設計・開発、また当社の企業目的である「環境・福祉・安全」に寄与する独自製品の提供を行っております。国内外に分社を持ち、独自の技術と商品でお客様のニーズに対応しています。また産学協働研究による環境事業の創造にも力を入れています。

JOHNANグループは2000年3月にISO 14001認証を取得し、3回の更新を重ねて参りました。生産現場を持ち、環境側面を管理する5つの分社サイトに環境組織を置き、それを全社環境事務局（本社EQI推進室）が統括する体制を敷き、JOHNANグループ全体での環境活動の推進と向上を図っています。

基本活動としての 環境負荷低減

JOHNANグループが行う環境活動には3つのステージがあります。

まず第一のステージとして、環境活動の基本活動として環境負荷低減の「紙・ゴミ・電気」の対策と化学物質管理の徹底推進を行っています。電気については、製造技術力を活かし、製造工程の稼動状況に合わせた製造設備の適正運転を目指し、設備の構造自体に技術的な改善を加えることで電気使用量の削減に取り組んでいます。コンプレッサーのインバータ化のための設備

改善やクーリングタワーの冷却タイミングの改善などがその例です。また廃棄物に関しては、廃棄物も資源と考え、可能な限り廃棄を無くすことを目指して活動しています。化学物質管理については、使用・運搬に関する標準化・在庫管理の徹底に加え、国内外の規制に対するコンプライアンスを図っています。

従業員の自主的な 環境活動への参画

第二のステージとして環境管理に関する内容は勿論のこと、業務の効率化や品質の向上などを目的とし、より現場に根付いた活動を推進していく手段として「小さな改善提案活動」があります。この提案活動を目的目標に組み込んでいます。これにより現場により近い観点から業務の見直しを行うことができます。環境についても従業員の目線でチャレンジした改善提案が数多く提出され、今後も従業員のエコマインドを育てていきかけとして、更なる改善制度の充実を図っていききたいと思っております。

地域と社会に対する貢献

第三のステージとして、地域や社会に対して貢献していく活動として、再生の森作りプロジェクトと環境商品の販売を有益な環境活動として目的目標化しています。

本社社屋が立地する京都府宇治市の近隣にて「(仮称)木津川右岸運動公園・再生の森づくり」プロジェクトが京都府とNPO法人とで進められており、



▲社屋

当社も植樹のための苗木育成に賛同し参画している活動です。現在200鉢の苗木の育成を行っていますが、年々育成する鉢数を追加し、活動を近隣の企業や小学校にも広げていきたいと考えています。

また、リサイクル材料を使用した油吸着剤や、化学物質を一切使わずに殺菌水を生成する電解機能水生成装置、コンプレッサードレン排水の油水分離装置などの開発・販売を通じて、将来、子供達によりよい環境を残すための一助になるよう、活動を展開しています。

今後の活動と課題

今後は工程における不良率低減・サプライチェーンに配慮した製品アセスメント・廃棄物の徹底削減とモノの有効活用など現場に根ざした、さらに踏み込んだ活動を推進していく必要があります。一方では各分社の地域環境に根ざした外部に向けた活動を推進して参ります。

また現在まで取り組んできたEMSやQMSの活動を活かして、EMS・QMSの統合も念頭に置きつつ、ISMS・BCMSに取組んでいく予定です。

今後、事業の展開を見据えつつ、ステークホルダーに商品と共に安心・安全で満足いただける企業を目指して環境管理活動を推進して参ります。

手島精管株式会社



ISO取得4年目、新たな取組み

代表取締役社長
手島 二三男 様

会社紹介

手島精管株式会社は、注射針用細管をメインとするステンレスパイプメーカーです。

外径0.20～15.00mmまでのパイプを製造・販売しており、基本的にはお客様からの依頼を受けて受注生産をしております。その他に加工も対応させて頂き多種多様なステンレス細管を製造出来ます。

海外からの引き合いも多く、これからは国際的に通用する品質保持を目指して2006年にISO 9001の認証を取得しました。

取組みのポイント

1. 5Sプロジェクト

5Sプロジェクトを発足し、職場の

環境改善のみならず次期リーダー候補として各部門の5Sリーダーは、会社をよりよくするよう部門内目標を立て約1年間取り組んできました。このことにより、社員の会社をより良くするという意識が高まったように感じられます。

2. 品質目標

弊社は、製造メーカーなので、不良削減が一番のポイントです。各部門ごとに目標不良率(件)を掲げ、実績・分析・対応策などを行っています。また、全社としての大きい括りでも捉え、不良削減に取り組んでいます。

3. 教育

昨年より、特に教育に力をいれるとすることで、教育項目を細分化し、基本・業務スキル・業務拡充・部門品質目標達成の区分ごとに各項目を掲げスキルアップを図っています。

社員の意識の変化

このような取組みを進めているうちに、ただ夢中でパイプ製造をしていた社員が、PDCAを実践しながら生産効率・不良削減を通じて利益につながるという意識がより芽生えてきたように感じられます。

設計・開発

今までは、お客様より引き合いをいただいたものを生産するというスタイルでステンレスパイプを必要とするお客様としか接することがなかったのですが、ステンレスパイプの新たな可能性ということで、弊社がオリジナルステンレスマドラーを開発しました。(左記参照)

これにより、ステンレスパイプの新たな需要が高まればと考えています。



▲社屋



お問い合わせ：
手島精管株式会社
E-mail:teshima@teshima.co.jp
TEL:0276-73-1173
FAX:0276-74-8069

静岡大学 情報基盤センター



ISMSが与えてくれた「見える化」の力

副センター長 博士(情報工) 准教授
長谷川 孝博 様

見える化

「見える化」という言葉がもてはやされ出しています。これに対して「可視化」という言葉は似て、異なるものであるらしく、多くのエンジニアはごく当たり前に意識して実践してきた手法であったにも関わらず、ブレイクには至りませんでした。これらの言葉の持つ印象の違いについて、平鍋健児氏は

この言葉(見える化)からは「現場」や「アナログ」のにおいがする。スマートさからは離れているが、逆に「粘り強さ」や「実践感」といった点で「可視化」という無機質な言葉とは一線を画している。(www.thinkit.co.jp)

と、巧みな解説を与えています。

一方、ISO規格であるISMS(ISO 27001)やその他のISO規格QMS、EMS、ITSMSに共通に含まれるMS(マネジメントシステム)を考えますと、まさにこの「見える化」によく似た無機質でない「粘り強さ」や「実践感」の香りが漂ってきます。

単に数値データや作業フローを図表に見栄えよく可視化して「よし」とするのではなく、ある時点における成果をPDCAサイクルという時系列に持ち込むことを要求します。そこには、監査、確認、見直し、是正といった、より多くの社員が関わりあう組織的なマネジメントシステムが待ち構えているわけです。

たとえば、ISMSに関して次の例を考えてみましょう。不正アクセスや迷惑メールで業務が阻害される対策と

して、ネットワーク担当者の申し出によってセキュリティ対策装置を導入したとします。高価な装置は、その脅威を劇的に減じることができ、説得力はあったかもしれません。しかし、これでは担当者の限られた判断で「可視化」的な対策がなされただけで、社員のセキュリティ意識も引き出せません。

組織にISMSの力が育まれていれば、そのような措置が最良かどうかを判断するための手順やチームが存在します。「真の原因」とそれに対する「抜本的な対策」の重要性を認識する社員がいるはずで、ふと「社員の教育」というキーワードに誰かが行き着き、より安価で効果的な対策を打つことができたかもしれません。

このように一見地味だけれども、限られたヒューマンリソースに磨きをかけてくれる「見える化」の力がISMSには備わっていると思います。

マニュアルの見える化

当センターにおけるISMSの「見える化」の成果のひとつに、マニュアルの「見える化」があります。マニュアルの大部分は単調な文書の集まりであり、これを図表化、つまり単純に「可視化」したという意味ではないことは前述の通りです。「見える化」の基準を次のように考えました。

- 安価であること。
 - 専門知識によらないこと。
 - 情報のCIAが調和できること。
 - ITを十分に活用していること。
 - 変更管理が容易なこと。
- 列挙してみると、矛盾するのでは

ないかと思われる項目もありますし、ISO規格要求とCIAの要求レベルをともに満足できる文書管理手法がそう簡単にあるとは思えません。事実、4年間に及ぶ試行錯誤の連続でした。その方法を簡単に述べるならば、一般的なワープロの持つ機能を十分に活用しながら、文書の構造や要件に合わせた「密度の高い集積」を行うというものです。ここで言う、「密度の高い集積」には、いくつかの意味が込められていますが、簡単にはファイルを分離しないということです。その他に、ワープロ≒ワードプロセッシング、すなわち「言葉(文書)のプロセッシング」という本来の意味を掘り起こして、様々な機能を活用しました。集積の密度を上げていくにつれ、文書の階層構造や標準化を徹底的に考え直すことも要求されてきます。多段に階層化された文書は、その粒度(詳細さの程度)が自ずと揃っていくことに気づかれます。

完成したマニュアルのA(可用性)の向上はもっとも劇的です。見出しの機能や全文検索などで容易に提供されることに気づきます。単語の揺れや誤字・文法チェックは自動実施され、文書のI(完全性)はファイルを開く度に増していきました。パスワード管理された少ない文書ファイルはC(機密性)の確保を容易にします。新任のスタッフにも文書管理を正確に、かつ楽しく任せることができます。ISMSが与えてくれた「見える化」の力のひとつであると考えています。

INFORMATION

ホットなJACOセミナーを ご活用ください

はじめに

企業の環境活動は今では不可欠な社会的責任の一つとして位置づけられています。現状では環境マネジメントシステムの審査登録は全事業所の0.4%にすぎず、持続可能な社会に向けては環境に大きな影響をもつ中小規模組織の環境マネジメントシステムへの参加が望まれます。今号では、中小規模組織の皆様の環境活動にどう取組めばよいかとのご要望に応える新たな研修プログラムをご紹介します。

JACOでは環境・品質・情報セキュリティ・ITサービス・労働安全衛生・食品安全など、さまざまなコースをご提供しております。次ページに2009年度下期のセミナースケジュールを掲載しますのでご利用ください。

ISO 14005—環境ISOの 段階型導入プログラム

JACOでは、このたび中小企業の方が容易に比較的廉価で環境ISOに取組めるよう、ISO 14005に準拠した環境マネジメントシステムの構築・運用支援プログラム「ISO 14001段階型適用プログラム(ISO 14005)」を開発しまし

た。環境ISOに取り組むたくても、人的制約あるいは財務的理由などで、二の足を踏んでいる企業の皆様にとっては、打ってつけのプログラムです。このプログラムに参加すると、環境マネジメントシステムを段階的に構築・運用でき、かつ段階に応じた検査により実施の確認がとれます。検査合格は社内外に公表でき、自社の環境への取り組み活動をアピールできます。

【環境ISO段階型導入プログラムの構成】

プログラムはHop(ホップ)・Step(ステップ)・Jump(ジャンプ)の3段階から構成されています。それぞれの段階は、構築・運用を支援する教育・研修プログラムと検査(Jumpの場合は審査)から成っており、教育・研修を受けながらシステムを構築した後にシステム運用を行い、検査を受ける流れに沿って導入がはかれるよう工夫されています。

【教育・研修プログラムの紹介】

環境ISO段階型導入プログラムを構築する、構築・運用を支援する教育・研修プログラムについてご紹介します。

教育・研修プログラムは、Hop・Step

教育・研修プログラムの構成

| | フェーズ | セッション | |
|------|-------------------------------|-------|---------|
| | | 集合教育 | ワークショップ |
| Hop | フェーズ1 環境活動への取り組み準備 | 1 | 2 |
| | フェーズ2 法令を守る枠組みの確立とその運用 | 1 | 2 |
| Step | フェーズ3 環境への影響を削減する計画づくりと実践 | 1 | 2 |
| | フェーズ4 管理の運用手引き作成と環境活動のレビュー | 1 | 1 |

の各段階に合わせ複数のセッションより構成されています。

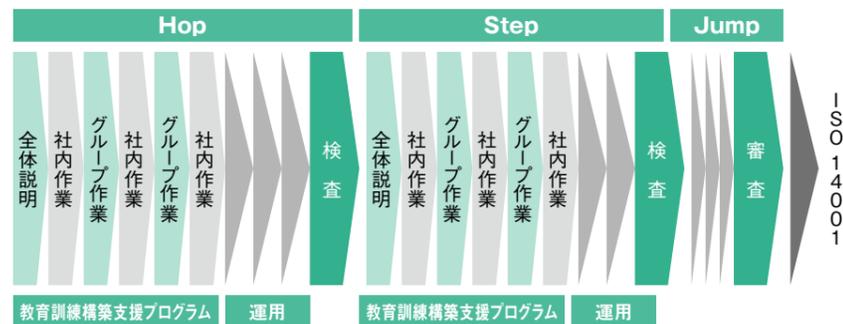
ISOの規格を知らなくても、マネジメントシステムの構築・運用ができるように配慮されています。規格が現場で実践できるよう規格が解きほぐされたテキストと指導方法を採用していますので、学びながら構築ができ、かつ知らず知らずのうちに規格の実践力が身に付きます。

【教育・研修プログラムの特徴】

- ISOの規格専門用語の使用を抑え、分かり易い平易な表現になっています。
- 身近な環境問題から取り組みを開始します。
- 法令・規制は関係するものを特定でき、守るべき基準が分かります。
- すぐ使える様式の雛形を豊富に揃えています。
- ワークショップでは講師が指導・助言を的確に提供しますので必要な書類が完備できます。
- 受講者限定のWEBサイトが提供されるので、いつでも疑問・質問に応えられます。また、各種帳票、様式の雛形、作成中の資料をダウン・アップロードができます。

【本教育・研修プログラムのお問合せ先
E-mail: info-g@jaco.co.jp】

環境ISO段階型導入プログラム



2009年度下期スケジュール

| コース | 開催場所 | 開催日 | | | | | |
|---|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------|---------------|---------------------|------------------|--------------|
| | | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 【CEAR承認】ISO 14001環境審査員研修コース5日 | 東京 大阪 | 19~23 | 16~20 9~13 | 14~18 | 18~22 25~29 | 15~19 | 15~19 |
| 【CEAR承認】EMS審査員資格拡大研修コース3日 | 東京 大阪 | | 25~27 | | | 15~17 | |
| 【CEAR承認】審査員資格更新リフレッシュコース1日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 8 | 2 | | 6 | 3 | |
| 内部環境監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 5~6 15~16 26~27 | 9~10 24~25 | 7~8 21~22 | 7~8 25~26 | 8~9 22~23 | 8~9 25~26 |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 8~9 22~23 | 5~6 19~20 | 3~4 17~18 | 12~13 21~22 | 4~5 18~19 | 4~5 23~24 |
| 内部環境監査員レベルアップコース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 29~30 | 16~17 | 21~22 | 22~23 | 4~5 25~26 | 18~19 |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 24~25 | 1~2 | 14~15 | | |
| 環境マネジメントシステム構築 | 実務コース3日 | 東京 大阪 | 28~30 14~16 | 9~11 7~9 | 1~3 24~26 | | |
| | 基礎コース2日 | 東京 大阪 名古屋 | 29~30 15~16 | 10~11 8~9 | 2~3 25~26 8~9 | | |
| 入門コース1日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 26 | 11 12 | 14 | 26 | 25 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 13 24 | 3 | 20 | 11 | 1 |
| ISO 14001:2004規格要求事項の解説コース1日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | | 11 | | 12 | 3 |
| 環境側面と環境影響評価研修コース1日 | 東京 大阪 | | 2 | | 14 18 | 30 | |
| 経営者・管理者コース半日 | 東京 大阪 名古屋 | | 2 17 | | 26 1 | 12 | |
| 環境法と関連地方条例の解説1日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 2 30 | 2 | | 1 9 2 5 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| | 1日コース | 金沢 | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS) | 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 |
| | 構築実務コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | | |
| 中小規模組織が取り組みやすいISO 14005 EMS解説コース | 東京 大阪 | | 5 | | | 16 | |
| 今だからこそISO 知って得するEMS複合マネジメントシステム構築Q/Eコース1日 | 東京 大阪 | | 11 | | 11 | | |
| 内部監査員養成コース2日 | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 9~10 | 21~22 | 22~23 8~9 | 10~11 | |
| | 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | | 1~2 | 26~27 | 14~15 | 15~16 | |
| OHSAS 18001:2007規格要求事項の解説1日 | 東京 大阪 | 28 | | 1~2 | 27 | | |
| 機械安全入門1日 | 東京 | | | 10 | | 11 | |
| 【2009年度】環境審査員CPD | 1日コース 及び 5時間コース | 東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 福岡 | 13 13 | 13 9 14 | 12 24 30 | 18 | |
| 1日コース | 金沢 | | | | | </ | |

事業所の所在地

■ 本社 (東京)

〒107-0052
東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル
TEL. 03-5572-1721
FAX. 03-5572-1730

交通案内

- 地下鉄 銀座線・南北線 溜池山王駅下車 8番出口前
- 地下鉄 千代田線・丸ノ内線 国会議事堂前下車 徒歩6分

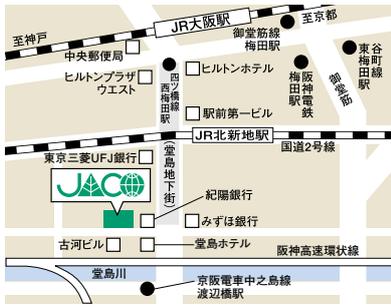


■ 関西支社 (大阪)

〒530-0003
大阪市北区堂島2-1-7 日阪堂島ビル
TEL. 06-6345-1731
FAX. 06-6345-1730

交通案内

- JR大阪駅下車 徒歩10分
- JR東西線 北新地駅下車 徒歩6分
- 地下鉄 御堂筋線 梅田駅下車 徒歩10分
- 地下鉄 四ツ橋線 西梅田駅下車 徒歩6分
- 京阪電車 中之島線 渡辺橋駅下車 徒歩4分



■ 札幌営業所

〒060-0004
札幌市中央区北4条西5-1
北海道林業会館6階
TEL. 011-232-1722
FAX. 011-232-1733

交通案内

- JR札幌駅下車 徒歩5分
- 地下鉄 南北線 札幌駅下車 徒歩4分



■ 名古屋営業所

〒450-0002
名古屋市中村区名駅3-22-8
大東海ビル6階
TEL. 052-587-2294
FAX. 052-587-2297

交通案内

- JR名古屋駅下車 徒歩7分



■ 金沢営業所

〒920-8203
石川県金沢市鞍月2-3
石川県鉄工会館3階
TEL. 076-268-9375
FAX. 076-268-9374

交通案内

- JR金沢駅下車 西口より タクシー約10分
- JR金沢駅下車 西口より バス約20分 (北鉄バス金沢駅西口経由「工業試験場」行き)



各種お問い合わせ・お申し込み

■ 新規にISOの認証取得をご検討のお客様は

- サーベイランス・更新審査の見積りや登録情報のご変更などに関することは
- 営業部・西日本営業部

| | | |
|--------|------------------|------------------|
| 東京 | TEL.03-5572-1722 | FAX.03-5572-1733 |
| 関西 | TEL.06-6345-1731 | FAX.06-6345-1730 |
| 札幌営業所 | TEL.011-232-1722 | FAX.011-232-1733 |
| 名古屋営業所 | TEL.052-587-2294 | FAX.052-587-2297 |
| 金沢営業所 | TEL.076-268-9375 | FAX.076-268-9374 |

■ 審査日程調整にかかわる事項に関することは

■ 審査部

| | | | |
|----------|----|------------------|------------------|
| 審査管理グループ | 東京 | TEL.03-5572-1748 | FAX.03-5572-1388 |
| | 関西 | TEL.06-6345-1732 | FAX.06-6345-1730 |

■ 審査に関することは

| | | |
|-------------|------------------|------------------|
| 審査部(環境審査) | TEL.03-5572-1725 | FAX.03-5572-1731 |
| 審査部(品質審査) | TEL.03-5572-1727 | FAX.03-5572-1731 |
| 審査部(複合審査) | TEL.03-5572-1725 | FAX.03-5572-1731 |
| 関西支社(審査) | TEL.06-6345-1732 | FAX.06-6345-1730 |
| 労働安全衛生審査センタ | TEL.03-5572-1729 | FAX.03-5572-1731 |
| 食品安全審査センタ | TEL.03-5572-1727 | FAX.03-5572-1731 |
| 国際審査センタ | TEL.03-5572-1725 | FAX.03-5572-1731 |

■ 登録証発行に関することは

| | | |
|-----|------------------|------------------|
| 営業部 | TEL.03-5572-1722 | FAX.03-5572-1733 |
|-----|------------------|------------------|

■ セミナー、書籍、ネットワークに関することは

| | | |
|---------|------------------|------------------|
| 技術部 | TEL.03-5572-1723 | FAX.03-5572-1988 |
| 技術部(関西) | TEL.06-6345-1731 | FAX.06-6345-1730 |

■ 苦情やご要望に関することは

| | | |
|-------|------------------|------------------|
| CSセンタ | TEL.03-5572-1741 | FAX.03-5572-1756 |
|-------|------------------|------------------|

■ 関連会社へのお問い合わせは

| | | |
|---------------------|------------------|------------------|
| 株式会社ジェイコ マネジメントシステム | TEL.03-3585-8931 | FAX.03-3585-8910 |
| 株式会社日本情報セキュリティ認証機構 | TEL.03-5561-9701 | FAX.03-5561-9700 |
| 株式会社JACO CDM | TEL.03-5572-1753 | FAX.03-5572-1757 |

編集後記

今年の夏は涼しい日が多く、あっという間に秋が来たように感じました。ふと、四季の移り変わりがこの先なくなってしまう時が来るのではないかと感じました。今は当たり前のように見かける植物や動物も、これからのようになっていくのでしょうか。想像し、考えることのできる私たちが今すぐに行動しないと、何も変わりません。些細なことにも目を向け、全力で取組む力をつけていきたいと思います。(しい えす子)



掲載記事に対するご意見をお聞かせください。

E-mail: cs-center@jaco.co.jp

JACOではホームページで各種情報をお届けしています。 <http://www.jaco.co.jp/>



Japan Audit and Certification Organization
for Environment and Quality

株式会社 日本環境認証機構



●この印刷物は環境にやさしい植物性大豆油インクを使用しています。 ●この印刷物はエコマーク認定の再生紙を使用しています。